

今がチャンス! これから楽しみ!

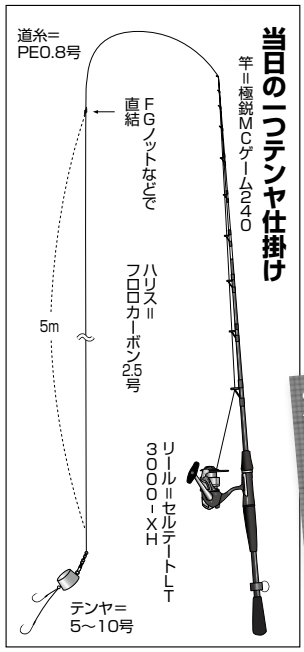
# 釣りどきレポート

Best Season Report

3G通信終了にともない最近耳にするのがガラケーからスマホに替えた後のアラーム機能の設定ミス。釣行日に寝過ごさないために、スマホに慣れるまでは予備の目覚ましを、ぜひ。



▲常磐エリアのマダイは11月も大いに期待できそう  
▼キャスト&カーブフォーで広く探って数をのぼしたベテランの石井さん



## 当日のテンヤ仕掛け

●Tackle Guide  
竿はオールラウンドモデルの一つテンヤ専用竿。リールはドラグ性能に優れた小型スピニングがおすすめ。テンヤのカラーは定番の赤と金、夜光の3色を用意すると心強い。

▼本多さんが釣り上げた5キロの大ダイ。うらやましい!



「やった! 自己記録更新」と興奮を隠しきれない彼女の笑顔を写真に収めた。その後は潮が止まってしまい、私も竿を出して1枚釣ったところで北側のポイントに20分ほどかけて移動となった。移動後もアタリが遠かったが、10時半ごろから徐々に潮が

が整った5時に港を離れた。30分ほどで真沖のポイントに到着すると、パラシュートアンカーが投入されて、「水深は31メートルです。どうぞ」との合図で仕掛けが投入される。1流し目は船内ノーヒットに終わったが、次の流しは各所でマダイが釣れ盛る。初めにヒットさせたのは右トモ3番の石井さん。氏は毎週末、欠かさずことぶき丸に乗船しているこの船の親分みたいな存在で、常連さんたちから慕われ、船長からも頼りにされている。石井さんが難なく500グラムほどのマダイを釣り上げると、隣の三浦さんにもアタリがきて同級をゲット。左舷に回り込むと、胴の間の根本さんが700グラムを釣り上げていたので写真に収めていると、左ミヨシ2番の末永

さんが竿を曲げているのが目に入る。こちらは400グラムとやや小ぶりではあったが、フアーストヒットはうれしいものだ。右舷に戻ると石井さんがすでに3枚のマダイをオケに泳がせていた。「さすがですね」と声をかけると「今日は取材だから船長に真面目に釣りをしろと言われているからねえ」とペロツと舌を出す。そんな会話の最中にも石井さんは4枚目をキャッチ。石井さんの釣り方は、アンダーハンドでキャストしてカーブフォーでマダイにアピ



しかも取材前日には3.6キロ、前々日にはなんと7.1キロの大ダイも釣れたとあれば、なおさらだ。

## 潮止まりで大ダイ浮上

船内どこかしらでアタリが続く、右胴の間の香田さんに強いアタリがきて45センチのアイナメをキャッチ。左トモの滑川さんが400グラムを釣り上げると、右トモの女性アンダー・本田さんが2枚目の大

ダイを釣り上げてニコリ。そんな和やかなムードのなか、突如ジリリリとリールのドラグを滑らせる音が鳴り響き、パツシーンと海面に跳ね上がるシイラの姿が目に見え込んできた。ヒットさせた新山さんが慣れたフアイトで取り込んだのは4キロもあるビッグサイズだ。やがて潮が流れなくなるとあれほど頻繁にあったアタリが遠くなった。しかし、「キヤー」と悲鳴を上げた本田さんの竿がガンガンたたかれ、ジリリリとドラグを滑らせて道糸が引きずり出される。魚が止まれば巻き上げ、再び走られる、一進一退の攻防が繰り返され、ポコッと浮かび上がったのは5キロの大

# 今が狙い目! 常磐の二つテンヤ

マダイは日本人にとって古くから祭事や祝い事には欠かせない魚だ。そこで各地で独特な漁法が生み出されてきた。沖釣りに目を向けても、これまで様々なスタイルのマダイ乗合があったが、その中でも主流になりつつあるのが「二つテンヤ」だろう。仕掛けがシンプルなおつテンヤはダイレクトにマダイの引きが伝わり、細いラインでのヤリトリはスリリングそのもの。それだけに取り込んだときの「釣った感」はひとしおで、この感覚が人気に拍車をかけているのかもしれない。10月10日、そんな一つテンヤマダイの取材に私が向かったのは茨城県日立会瀬港のことぶき丸だ。マダイは春と秋がシーズンという印象が強いが、このエリアでは一年中マダイが狙え、ことぶき丸も周年マダイで出船している船宿の一軒。気になる釣況もトップで10枚前後と安定しているので期待は十分。

知得! テンヤの増しオモリ  
テンヤはさまざまなタイプが販売されており選ぶのにひと苦労。しかも同じタイプでも号数ごとにそろえる必要がある。そこで私は、写真のようにテンヤの上側に中通しオモリを付けて号数の調整をしている。  
▶中通しオモリは1号を使用

早朝がチャンス!  
集合時刻は4時半、乗船者は14名。同船は電話予約順で当日の釣り座を決めるシステムで、船長が名前を呼んだ順に各自が釣り座に入り、支度

動き始めると、再び活性が上がったのか400〜600グラム級のマダイが各所で釣れ上がる。シイラを釣った新山さんが派手なアタリをとらえて1.5キロのカンパチをキャッチ。続けて左ミヨシの沖田さんがタイラバで2キロのイナダを釣り上げ、私が7枚目のマダイを釣ったところで沖揚がりの12時を迎えた。釣果は0.4〜5キロのマダイが2〜12枚。ほかカンパチ、イナダ、アイナメなど。船長は、潮が動かない時間が長かったためアタリが普段より少なく小型が目立ったと残念そうだったが、秋の好期はまさに今。潮具合など条件がそろえばマダイの引きをぞんぶんに楽しめるはずだ。

●船宿information  
茨城県日立会瀬港  
ことぶき丸  
☎0294-23-2338  
(詳細は巻末の情報欄参照)  
▶料金=一つテンヤ乗合一人1万1000円(氷、エサ1バック、弁当付き)、追加エサ1バック600円  
▶備考=予約乗合、4時半集合。ほか青物ジギング、オキメバル、マダコへも